

放課後、北校舎3階奥の男子トイレ。

「噂が本当ならここで…」

意を決して扉を開くと

目の前に信じられない光景が
広がっていた。

(うわうわ♡うわうわ♡)

手コキはこれぐらいでええかな？

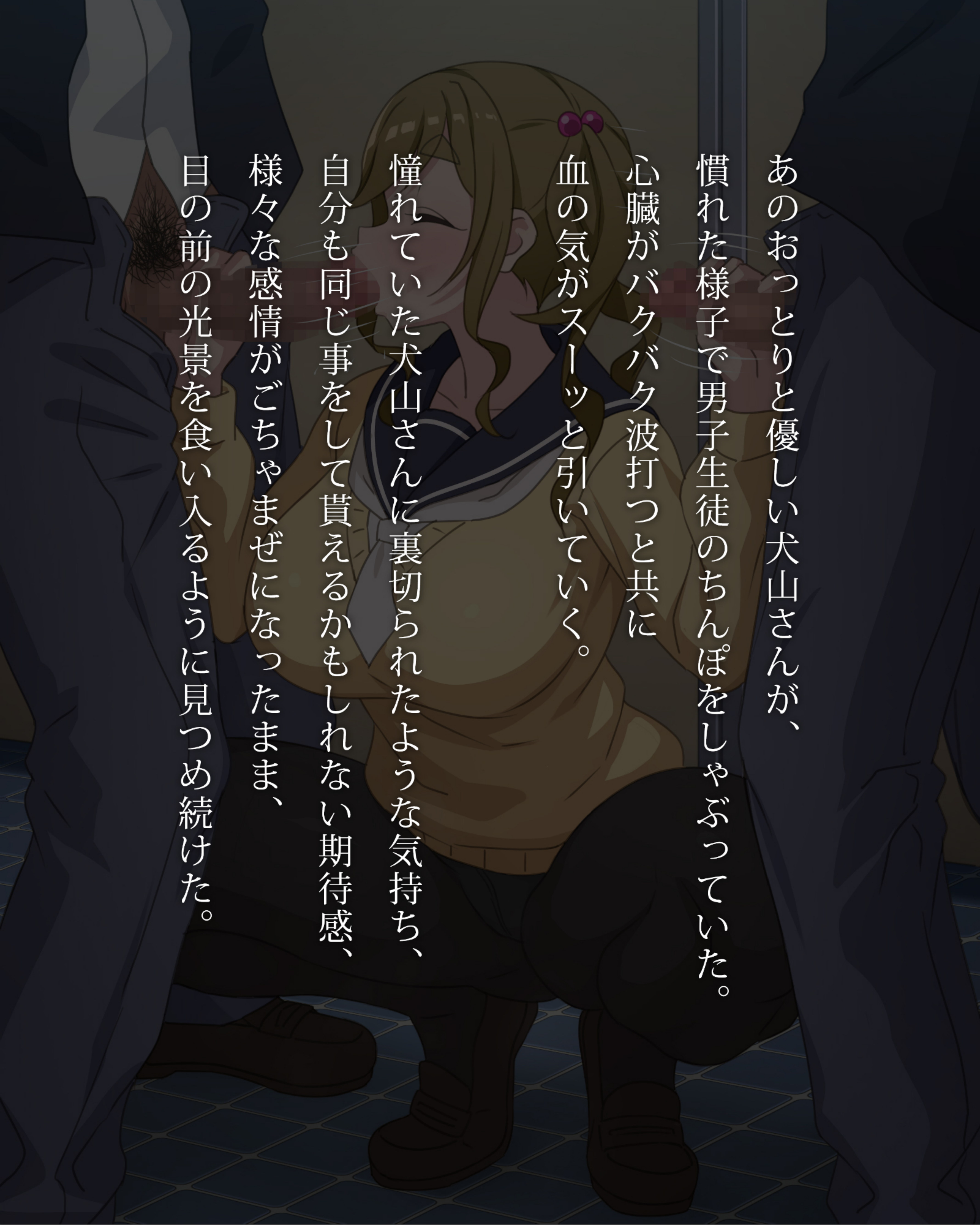
強くして欲しかったら遠慮なく言ってなあ♡

(ぽんぽん♡ぽんぽん♡)

ふふっ、気持ちええ？こんなに大きいと

おしゃぶりするのが大変やわあ♡





あのおつとりと優しい犬山さんが、

慣れた様子で男子生徒のちんぽをしゃぶっていた。

心臓がバクバク波打つと共に

血の気がスーッと引いていく。

憧れていた犬山さんに裏切られたような気持ち、

自分も同じ事をして貰えるかもしれない期待感、

様々な感情がごちゃまぜになったまま、

目の前の光景を食い入るように見つめ続けた。

（んぼっ♡んぶっ♡）
（しゅっ♡しゅっ♡）

ん？

二人共もうイキそうなん？

ええでー♡そのまま好きに射精してなあ♡



はあ♡ほっ♡ほっ♡♡
(ほっ♡ほっ♡ほっ♡)

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡



…ぷはあ♡ごちそうさまあ♡

二人共いつぱい出したなあ♡お疲れさん♡

今日は延長はええんやね？

じゃあ会計は

また明日に

よろしくなあ♡

今度は二人一緒じゃなく、しっかりお金貯めて

それぞれもつとええことしようなあ♡

待つとるでっ♡





あの犬山さんが本当にこんな事を
していたなんて…

「噂は本当だったんだ…」

思わず言葉が漏れてしまった。

すると、奉仕を終えたばかりの

犬山さんの目がスツとこちらを向いた。

あっ♡○○君やあ♡

キミも来てくれたんやね♡

ちよひん

終わったところなんよ♡

すぐ用意するから、ちよひん待ってなあ♡

